県民の身近な代弁者
熊本県会議員
熊本県庁
〒862-8570
熊本市水前寺6-18-1
Tel.096-383-1111
（内線2008）

しろしたこうさく 城下広作県政報告誌

2009年　2月発行　第 39 号

2009年6月議会
議会での主張が実現！

脳脊髄液減少症を学習
高等学校保健会の研究大会
早期発見・治療が重要
熊本県

脳脊髄液減少症を知ってほしい――。熊本県高等学校保健会はこのほど、熊本市内で保健研究協議大会を開催。熊本市民病院の光藤尚医師が「中高生の脳脊髄液減少症について」と題して講演した。

今回の講演は、同症の学校現場への周知徹底などを訴えてきた、熊本県議会公明党の城下広作議員の取り組みが後押しとなって実現した。講演の中で光藤氏は、この病気が必ずしも外傷を伴わないことから、病気の診断の入り口となる保健室や学校の役割が重要であるとし主張。その上で、頭痛を訴える生徒には、この病気の可能性を疑ってみることが大切であるなどと説明した。

この日の講演には城下議員と、脳脊髄液減少症患者・家族支援協会の島田敏子九州事務局長らが参加。講演後、島田事務局長は、「重要なのは早期発見・早期治療。周知徹底のために、学校関係者だけでなく一般の方が参加できる講演をもっと行ってほしい」と語っていた。

脳脊髄液減少症への対応の重要性については、城下議員が2009年6月議会で主張。「学生の患者も多く、体調不良で休むと先生の理解が得られず誤解を受けるケースも多い。教育現場での認識の徹底を」と訴えていた。

また、同年10月には、城下議員と支援協会が、蒲島郁夫県知事に対して3391人分の署名を提出。教育現場での周知徹底や県内の病院での早期治療開始、患者相談窓口の設置や支援体制の確立、保険適用実現などを申し入れていた。

中小企業支援に全力投球!!

開発された「ワンペダル」の説明を受ける城下議員㊧

中小企業支援策探る
公明県議 経営者と意見交換
熊本県

熊本県議会公明党の城下広作議員はこのほど、アクセルとブレーキが一体となった自動車の「ワンペダル」を開発した、同県玉名市の有限会社「ナルセ機材」を訪問。鳴瀬益幸社長と企業経営の実情や販路拡大などについて意見を交わした。

同ペダルは、アクセルとブレーキの踏み間違いによる事故をなくすために開発されたもの。大型のブレーキペダルの右側に棒状のスライド式アクセルレバーを設置。加速時は足でレバーを右に動かし、減速時は、足を戻して速度を調整する仕組みになっている。

鳴瀬社長は、アクセルとブレーキの踏み間違いで事故を起こしそうになった自身の経験から、1991年にワンペダルを開発した経緯を紹介。技術革新に取り組む中小企業に対する行政の支援の在り方などについて城下議員と懇談した。

城下議員は、中小企業支援に全力を尽くす考えを示した。

●ホットライン《お気軽にご相談ください。》
県議会/096(383)1111(内線2008)・携帯電話/090-8661-7722
●ホームページ http://kumamoto-komei.net/shiroshita/
●メール shiroshita@kumamoto-komei.net